

令和8年度 第3回気高地域振興未来会議議事概要

日 時 令和8年7月21日（火） 14時00分から16時00分

場 所 気高町総合支所 2階会議室

〔出席委員〕

地原伸、原克栄、大原友美、河根裕二、渡辺雅子、片山敬子、木村明則、
湯口正子、荒尾純子、松井千晶、武田敏男、田中敦志

以上12名（順不同敬称略）

〔欠席委員〕

なし

〔事務局〕

中原支所長、田渕副支所長兼地域振興課長、小宮地域振興課長補佐

〔鳥取市総務部 資産活用推進課〕

長谷係長

〔傍聴者〕

なし

◎議事概要

1 開会

2 議題

（1）くらしと公共施設を考えるワークショップについて

【資産活用推進課】今年度10月と11月に予定されているくらしと公共施設を考えるワークショップについて説明をおこなった。

【委員】人口減が日本全国どこも大きな問題となっており、それから予算がないというようなことで、いろんなことが削減されてきているのが現状である。合併して新市になってから施設がどんどん減らされている。先日の乳幼児健診なども同様、自分たちが住んでいる地域で施設が減らされていくと、果たしてこれで本当に人口が増えるのか。市としては人口増加を考えているはずであるが、予算がないからという理由でなかなか前に進んでいかない。一方で全国にはすごく頑張っている自治体もある。市として気高にはこういうことに力を入れて欲しいといった案が出たときには、しっかりと酌み取って本気になって考えてほしい。

【委員】過去のワークショップ参加人数について、公募によるものとあるが、こ

れは実際に集まったのか、公募はしたが集まらず自治会長や地区会長にお願いして集めてもらったのか。そのあたりを教えてほしい。

もう一点は昨年度開催された地域づくり懇談会で施設ごとにまとめた表があるのだから、まずはそれに対して各団体が住民の総意を示して、このワークショップに向かうのはどうかという意見が出た。先ほど意見があったように合併して新市域は範囲が広く地域間でのばらつきや世代間人口が増える地域とそうでない地域が明確にある。そのことを考慮しながら公共施設のあり方や将来に向けての考察がないと、けっして人口規模だけでは判断しないと思っはいるがそのあたりどのように考えているか。

【資産活用推進課】参加者について実際に昨年度開催した地域では、我こそはと手を挙げた人もあったが少なく追加で声掛けをして集めた状況であった。メンバーは、地域振興未来会議の委員や社協職員、地域で役をされている人や自治会長、地元の中学生であった。その他の一般参加者では、40 歳代より上の年齢層が多かったように思う。全地域で延べ 160 名参加があった。まずは公募をして人数が集まれば一番良いが、人数が少ない場合には支所職員にも協力してもらいながら参加者を募ることを考えている。

たたき台については 1 つだけでなく最低 2 つを考えている。こちらから提案はするが、いい悪いということではなく、案に基づいてワークショップで自由に提案してもらい形を進めていくことを考えている。たたき台としては、住民の総意を出してはどうかという意見があったが、本当はそれが一番良いが地域性もありなかなか案が出ない地域もあり、市でたたき台をいったん作成して進める方法でやることについて理解してほしい。現状どうしても施設数でいくと新市域の方が多いことから目立っているが、施設再配置については、旧市域においても同様に進めているところである。

【委員】昨年度開催されたワークショップでの成果について具体的に教えてほしい。もう一点は資料 1 ページ右のフロー図下部分に説明があるが、例えば 3 番の合理性であれば、「計画性がなく」といった記載があるがそのあたりの意味を教えてください。他にも安全性という部分で、本市主体で管理運営すべきと判断したとある。当然予算状況も視野に入れて計算することは理解できるが、そこを合理性という言葉で片付けられると、なんかもう無理といったことや先が見えない感じがする。その辺りの補足説明をお願いしたい。

【資産活用推進課】昨年度の成果については、現在方針を策定しているため、実

際目に見えるようなものはできてない状況である。実際出た意見としては例えば用瀬地域では流し雛の館が地域にとって大きな施設であるが、結局今の展示物のままでは駄目だと住民から意見があった。一方で流し雛は用瀬のシンボルとして必要であるので展示物を見直して、より観光性の高いものにしたらどうかといった意見があった。今後これらの意見をどのようにまとめていくかを検討している最中である。

もう一点の仕分けフロー図は機械的に定性的、定量的評価という形で仕分けをしており、合理性のところの計画性については、実際 10 年、20 年、30 年後に施設をいつの時点でどのように改修や建て替えをするといった明確な計画ができていくかどうかということになる。現在市内には 812 施設あるが、全ての計画ができていくというのではなく、学校のように優先すべき施設には計画が作成されている一方、優先度が低い施設については計画があるものではない。合理性については、市が運営しなくても民間で同じようなサービスができる施設なのかどうか。もしくは利用者が限定され、地域に専用施設として使ってもらった方がいいのかという形で整理をしているところである。

【副会長】ワークショップで住民の意見をしっかりと聞くことには賛同している。一方でこの 2 回のワークショップだけで、方向性が決まってしまうというのではちょっと不安なところもあり、ワークショップでの意見をもとに再配置計画を市が作成し、どのように地域に再配置計画を説明し意見を出してもらって、この方向性で行きますといったような明確なプロセスがわかればよいと考える。

【資産活用推進課】資料 3 ページ目に各施設の一覧を掲載している。一覧表の左側 3 列目に再配置計画での方向性ということで、実際に少しずつ進んではいるが施設の再編についてなかなか進んでいないといった現状がある。まずはワークショップで皆さんの意見等をもらいながら、地域ごとに今後どういった再編を進めていくのがよいかの意見をもとに地域ごとの方針を出すことを進めているところである。その後ある程度方針が決まれば、施設を所管している担当課があるの関係課とも協力しながら、該当施設を複合していくのかどうか方針を出していくことが今回の動きになると考えている。その場合には地域振興未来会議の場で改めて方針の進め方を説明したいと考えている。実際具体的に進める場合には所管課が施設のあり方について検討していくことを想定している。

【田中委員】3 ページ以降の表で黒と赤と青という色分けがしてあるが、例えば同じような施設でも黒色のものや赤色のものもある。そういうところはどのように考え

たらよいか教えてほしい。もう一点は 3 ページの上の表で地域別施設状況および人口推計というのがあるが、ここに公費負担額というのがあり、例えば気高では人口 1 人あたりの公費負担額にすると地域によってかなりのばらつきがあるように思う。これを今後市全体として均等にしていくような考え方であるならば、中山間地域がどんどん寂しくなる方向に進んでいくことが考えられる。そのようなところの市としての考え方を教えてほしい。

【資産活用推進課】黒字と赤字の違いについては、一番は安全性でありどうしても機械的に分類したものになるので、実際には少し違いが出ると考えている。結構幅が広い点数で機械的に仕分けているものになるので、あくまでも目安として見てもらえればと考えている。公費負担額を掲載しているところについては、あくまでも参考程度の数字であり、公費負担額を全市で均等になるよう施設整備を進めるといったことは考えていない。

【会長】ワークショップを開催したことで、気高地域振興未来会議においても施設のビジョンを検討していくための議論の場でもあるというふうに考えている。例えばコミュニティセンターやデイサービスセンターが老朽化して限界を迎えているが、このような施設を廃止して、新たに複合的な施設を作ることが可能なのかどうか。方向性を決めてから実はこの施設は廃止の方向で進んでいるとなってしまうと、整合性が取れなくなるのでそのあたりをどのように考えているのか。もう一点は表で青色に近い施設が今後相次いで取り壊しになると、財源的にも限界を超えてしまうのではないかというふうに心配しているが考え方を聞かせてほしい。

【資産活用推進課】ワークショップでどの施設を対象にして話を進めていくかについては、実際のところまだ決まっていない。今後庁内で検討しながら進めていく予定にしている。なかにはどうしても耐震性が低い施設があり、昭和 56 年の 6 月以前に建てられた施設は、震度 5 強までは耐えることができるが、それ以上の地震が来た場合に耐えられるかどうかは新耐震基準を満たしていない施設になるので、市民の安全性を考えるうえでは古い施設をどうしていくのかを住民と一緒に考えていかなければならない。コミュニティセンターも古い施設であるため、施設ありきで動くのか、どういったサービスが必要なのかということも含めて、住民と一緒に検討していきたい。浜村温泉館については、令和 4 年と令和 7 年に民間企業に対してサウンディング型市場調査で活用ができないかを投げかけたが、残念ながらいずれも民間から提案がない状況である。今後については所管課と協

議を進めているところである。ワークショップにおいて話があがればどのようにしていこうかを検討していくことになる。

【地原委員】要望にはなるがワークショップの委員の公募で民間や社協などの団体などいつも同じようなメンバーで議論しているだけではないので、金融機関や商工会でも例えば青年部や教育関係の若者とのマッチングをやらなければならないと考えている。公募をするうえでの考え方について教えてほしい。

【資産活用推進課】以前は年代ごとで人を集めたいと考えていたが、実際なかなか参加者が集まらない状況が続いている。本当は年代ごとでいろいろな意見を聞きたい気持ちではあるが、人に集まってもらわないとワークショップをする意味がないので、何とか人が集まってもらえるような形で参加者を募集していきたい。公募しても人数が少なくこのままであれば開催が難しいような場合には事前に相談のうえ進めていけたらと考えている。中学生については中学生だけのグループで、ワークショップに参加してもらうように設定しているので、そこで若者の意見も聞きながら進めていきたい。

【委員】例えば中学校にジュニアリーダーというグループがあり、その他にもボランティア部もあるので、そこからたくさんの中学生に参加してもらいたいと考えている。また、去年は各地域 3 回ずつ行われていたが、今年は 2 回ずつしか開催されていないが、なにか理由があつてのものか。

【資産活用推進課】このワークショップの参加要件として毎回参加できるとしている。去年は 3 回で開催していたが、参加者からすべて参加することが難しいという意見をいただいて、今年は 2 回に減らして開催した経緯がある。その分 1 回あたり 30 分増やして内容が同じものとなるよう調整をおこなっている。

（２）気高地域の小学校統合に関する取組みについて

【事務局】気高地域の小学校の統合等に関連する現状について、6 月 2 日に開催された第 7 回気高地域学校統合準備委員会の資料を基に説明をおこなった。

【委員】校舎屋上部分について、図面では屋根を設置するようになっているが、防災の面で考えると屋根ではなく、災害が起こった場合に屋上避難も考えられるが、これについて委員からは意見はあったか。

【事務局】屋上について委員会でも話があつたが、屋上に垂直避難することは、学校が建設される地域では想定されておらず、防水シートで覆って屋根の勾配をつけ設計が進められていると聞いている。

【委員】住民はまだこの地域に水害が起こるのではと心配している。火災面においても 2 階部分でもしも火災が発生した場合に屋上があったらよかったということがないように考えてほしい。工法的な問題は今の技術であれば、屋上を作れないといったことはないはずである。

(※屋上形状については、後日確認をしたところ現時点では検討中)

【委員】1 階の配膳室が南西方向、職員室が北西方向に配置されている。配膳室が設置される場所は日当たりがよく、食中毒のことを考えるとあまりよくない。逆に職員室の設置される場所は日陰で冬は寒い場所であるし、西日がきつく外が見えにくい場所ではある。

【事務局】職員室についてはグラウンドが見やすいように配置されている。配膳室についての議論は特にはなかった。

【委員】一番給食を運びやすい位置ということで決めたとは思いますが、食中毒のことはしっかりと対策を考えてほしい。もう一点は先ほど屋上の屋根の話があったが、太陽光パネルなどが設置できれば省エネ対策にもなるので、その辺は今後検討されないのか。

【事務局】ソーラーパネルについては設置しないと聞いている。

(※ソーラーパネル設置について、後日確認したところ現時点では検討中)

【副会長】資料 3・4 で訂正があり、7 月の下旬に各戸配布される統合準備委員会だよりもに掲載するものと内容が少し異なっている。小委員会の記載が検討チームに名称が変わったということで校区審議室より連絡があった。修正後のものを資料として掲載してほしい。

もう一点は統合準備委員会だよりもに建設予定地では造成工事、盛り土作業を実施し、現在は地質調査業務として、ボーリング調査をおこなっており遺跡調査はすでに実施されたように記憶している。もう一点は造成工事が遅れており、工事後 1 年ほど安定期間を確保するという事になっているのに、このままでは工事が遅れるのではないかと不安である。

【事務局】今回のボーリング調査は、建物下の地盤のボーリング調査と聞いており、勝見川放水路側については、放水路のボーリング調査と影響調査である。土砂搬入は県の工事業の残土を持ってくるという話であるが、その事業が遅れ土砂の搬入ができておらず、8 月盆明けぐらいになると連絡があった。そのため工期も 1・2 か月延期になるといった情報が先日入ってきたところである。

【副会長】建設予定地の下には強い岩盤があつて、それにしっかりと打ち込めば、

安定・安全な校舎がつかれると聞いたがそれは事実であるか。

【事務局】岩盤まで支持層にくい打ちをするような工法ではなく、盛り土をして沈下を防いで安定化させる工法であると聞いている。

【委員】改正案資料 2 の第 9 条の委員会で 3 つの部会の記載があるが、具体について補足がない。準備委員会に関する要領で 3 つの小委員会の記載があるが、こちらも調査研究の中身が何の目的でおこなうのかの記載がまったくない。13 ページの部会名簿についても 3 つの部会全部に名前があるメンバーもあれば、1 つの部会しか掲載されていないメンバーもある。そのあたりは統一的なものではないのか。

【副会長】要領や要綱に部会の目的や協議内容が明記されていないことについては、前回の準備委員会で同じ意見を言って、再検討を依頼したところである。そのため後日整備されたものが出て来ると思われる。

【会長】部会メンバーとしては、確かに重複している人があり、地域の実情に応じて支障があれば変更してもらってもよいというスタンスである。今後も進捗状況はその都度この会で報告していきたい。

（3）気高地域振興未来会議現地視察について

【事務局】次回 10 月に予定されている地域振興未来会議現地視察について、現時点での案について説明をおこなった。

【委員】資料をもらって説明を受けて、あとは日頃聞いていることを聞くのであれば、わざわざ現地まで視察に行く必要性がないように思う。

【事務局】状況は日々動いており、実際委員に現地を見ていただくことで、肌で感じてほしかったのでこの視察については企画をおこなった。

【副会長】昨年度からこの事業でたくさんの予算が使われている事業であるから、少し状況が変わってきているのではないかと期待している。一気には変わらないかもしれないが、何をしようとしているのか実際に見たい。神社やコウノトリはいつでも見ることはできるので、何かこの視察で事業がどういう方向で動いているのかがわかって、さらに終了後に事業拡大して展開される可能性が本当にありそうなのか、そのあたりも見たいと思っているので、何か新しいものを実際に見てみたい。

【事務局】現時点のものであるため、今後変わってくる可能性としては十分に考えられる。現在どんどん事業が進んでいるので、内容についても少し変更になる

可能性がある。それについては現地で補足して説明をしようと考えている。視察場所についても現時点での案ということになるので、生姜穴は見られたことがあると思うが、実際その生姜穴を使ってどういうことをしているかということも補足して説明していただく予定にしている。あくまでも一つの案として例示しているものにすぎないので、予定については進捗があり次第、その都度変更していきたいと考えている。

【委員】一つ何とか協議する場がほしい。説明だけを一方的に受けて終わりではなく、質疑応答の時間を 15 分程度でも作ってもらえると委員の理解も深まると思うが実際可能であるか。

【事務局】質疑応答時間を設けることについては、エーゼロや地元住民にも相談してみたいと考えている。

3 その他

(1) 乳幼児健診実施体制の見直しについて

【会長】前回乳幼児健診の実施体制の見直しについて、市の方から説明があり、その件について皆さんに意見を聞きたいと委員から提案があったので説明をお願いしたい。

【委員】アンケート内容については、中央一本化ありきのようにしており問題があると感じている。具体的には気高の健診会場のままでよいという人には、記述しないといけないようになっている。（Q10の項目について）逆に中央に一本化するという項目を選ぶと記入する箇所が少ないような、とても不公平なアンケート内容であると感じている。実際自分はボランティアとして現場に行っており、小さい子供がアンケート用紙をぐしゃぐしゃにしながら走りまわっているような状態で、アンケートの記入どころではない状態を目の当たりにした。先日の議会でも質問があり市長は皆さんのニーズを聞いたうえで決定しますと答弁されたが、気高での乳幼児健診の状況はとても充実しており、6ヶ月健診以外にも独自に1歳半、3歳児健診時にも読み聞かせを実施しており、誰もが地域で気軽に相談しやすい雰囲気が作れていると思う。それが一元化することで、遠くなること自体一番の問題であり、これまで5分や10分でも歩いて行けるような健診会場だったものが、中央に一本化することで、車で40分50分、青谷に近い地域であればそれ以上の時間を要するような状態で6ヶ月の赤ちゃんを連れていくことや、先日実際にあったが双子の赤ちゃんを健診に連れて行こうと思ったらどれだけ大変

かというのを皆さんにもわかってもらいたいし、今までできているものをどうして一本化するのか、その理由を知りたいので意見として別紙に書かせてもらった。不便になる方向に持っていくのはなぜか。少子化や健診スタッフを他地域に派遣するのが困難になるので、一本化することありきで進めているように感じている。いったい誰のための改革なのか。誰一人取り残さないといいながら、特に新市はますます取り残されている。一本化のメリットとしては健診の質の向上、コスト削減や情報の共有とのことで、これはいったい誰にとってのものなのか。市長はニーズを調査したうえで結論を出したいと言われている。

子ども・子育て支援金や地方交付税措置などもされており、当事者、保護者第一に考えてほしい。アンケートの結果、8割9割が今までどおり実施して欲しいという回答をして突然有識者が出てきて決定したということが、これまでに前例があったが、そういうことがないようにしてほしいというのがまとめである。

乳児健診の西地域でおこなっていくメリットというのを資料に書き出しているの
で後で読んでみてほしい。

一本化のデメリットとしては、遠くなることで不便になる。停めにくい駐車場を利用しなければならない。知らない人ばかりで相談がしにくい。その日のために照準を合わせることが難しい。一方気高でやっていくメリットとしては、先ほど少し説明したように待たなくてもよいというメリットと、同世代の子が近くにいて安心できる。人対人でじっくりとコミュニケーションが取れる。

気軽に相談がしやすく、親子に寄り添える保健師、地域のボランティア西地域は6ヶ月以外で先ほど言いましたけど、独自の1歳半3歳児健診でも読み聞かせボランティアが入っている。

【委員】乳幼児健診の意義という視点でこのことについて考えてみた。乳幼児健診は妊娠から出産そして育児へと繋がるライフサイクルのなかで、様々な情報を得る機会であると考えている。母子保健は、地域保健活動の出発点であり、乳幼児健診は母子保健活動の根幹となっていると考えている。

こども家庭センターは母子保健機能として、子どもの発達状況を見るだけではなく、お母さんにとっても大事な福祉機能の一つになっていると考えている。妊婦や子育て家庭への相談支援をおこない、早期から切れ目のない包括的で継続的な支援を実施することを目的に乳幼児健診がおこなわれている。本来理念を具体的に支える役割を担うべきなのがこども家庭センターである。国が掲げる切れ目のない子育て支援を具現化するこども家庭センターこそが1人でも多くの乳幼児

健診を受ける人を増やしてもらうためにどうしたらいいかというものを考えてもらいたい。合理性ばかりを考えるのはいかなものかなと考えている。

【会長】 この案件はまだ実施中なのか。それとも集約された部分が出てくるものか。

【委員】 アンケート調査期間は 10 月初旬までである。健診に来た人以外に、中央で母子手帳を受け取る際にも渡しているが、果たして母子手帳交付時に記入する時間があるのか疑問が残る。

【委員】 アンケートは乳幼児健診対象児童の保護者やこれからお母さんになる人（母子手帳交付者）を対象に実施している。

【委員】 対象を絞り過ぎるのではなく、保育園に通っている児童の保護者でも、第 2、3 子を考えているかもしれない。そういった保護者も広くアンケートの対象とすることを考えてみてはどうかと思う。

【委員】 市議会からも質問があつて、市長も保護者の声を聞いたうえで判断すると答弁されているが、アンケート自体も郵送するなり、もう少し方法を考えてほしいと思う。

【委員】 アンケートが開始された際に中央でしてほしいという要望があるならまだしも中央に一本化すると聞いた後にアンケートを取ると聞いて、実際アンケートの内容を見て正直なところがっかりしている。

【事務局】 乳幼児健診を受診する保護者にアンケートを事前に郵送しており、健診に来た人にその場でアンケートを渡すという方式ではない。

【委員】 こういう形でアンケートして結果を出すのか出さないのか、私自身正直なところ不信感を持っている。集計した結果、例えば 7 割反対があつた場合に本当にどうするのか。それでも強行して中央に集約するのか。子育て支援について市がどのように考えているのか、気がついた時には気高からは何も無くなっているのではと考えると非常に不安である。私達は気高地域の未来を考えて話し合っているのに、市の追認委員会みたいになっており、非常に違和感がある。松井委員が言っていることはよくわかる。今後もしろいろな形で手を変え品を変えとまらないよう願うばかりである。

【委員】 高齢者が多いので実際に人口は減っているけれども、健診に来られている人は第 4 子以降の家庭があるくらい子供がたくさんいる。新しい家もたくさん建ってきている。気高地域が振興するよう私たちは委員を務めている。こういった形で中央に集約されてしまったら、気高に住んでいる意味がなくなってしまう。

そうならないようにすることが自分たちの役割であると考えているので、委員一丸となって気高での乳幼児健診をなくさないようにしていきたい。

【委員】今後の人口増は見込めないが、気高町は一定数の子どもはいる状態がしばらくは続くと考えている。それを合併地域は一律に中央の健診会場に集約することは、やり方としては乱暴なように思える。近隣の岡山県奈義町では子育てに非常に力を入れており、ボランティアへの支援体制も行き届いておりとても進んでいると聞いている。ああいった事例を参考にしてもう一度健診体制について考えてほしい。場合によっては署名活動をする必要になってくるのではないだろうかと考えている。

【副会長】実際にボランティアとして関わっている人が文面でメリットデメリットをまとめているので、もちろん市長に直接対談をして意見を伝える方法もあり、これまでも地域振興未来会議が意見書を提出したこともあったので、実際に健診を受診する保護者の声を聞いていけば、より説得力のあるものになるのではないかと考えている。一度検討をしてみてもよいのではと考えている。

【会長】現在アンケートを取っているため、集計結果を待ってから方針を決めることもできるので、このことについては引き続き議論を重ねていくこととする。

【委員】鹿野や青谷の地域振興未来会議ではどのような反応であったか。

【事務局】青谷では気高と同様に一本化に対して反対の意見があがったと聞いており、鹿野では特に意見がなかったことは聞いている。

※次回日程について

令和8年10月27日（火）14時からとし、後日改めて連絡する。

以上